

2026年3月期 決算説明会



**Power Electronics
for Your Innovat!on**

サンケン電気株式会社

2026年5月15日

**Power Electronics
for Your Innovation!**

独自性のある技術、
人と組織のパフォーマンスで成長し、
社会のイノベーションに貢献する
高収益企業の実現

- 2026年3月期 業績
- 2027年3月期 業績予想
- 24中計 進捗/課題 将来成長イメージ

2026年3月期 業績

2026年3月期 通期業績

(億円)	2025年3月期					2026年3月期					通期 前期比		
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	金額	増減率	
売上高	498	230	233	255	1,216	222	188	181	210	802	-414	-34.1%	
サンケンコア	224	224	216	237	900	210	185	181	210	786	-114	-12.7%	
その他	275	6	17	18	316	12	3	0	0	16	—	—	
営業利益	-46	-10	2	16	-38	-4	-5	-8	-30	-47	-9	—	
サンケンコア	3	-1	4	15	20	-3	-4	-8	-30	-45	-65	—	
連結調整他	-49	-9	-1	2	-58	-1	-1	0	0	-2	—	—	
持分法投資/LPS運用損益	—	-20	18	-48	-50	-1	9	-10	-27	-30	+20	—	
経常利益	-57	-86	34	-35	-143	-9	1	-22	-58	-88	+54	—	
特別損益	15	634	6	-7	648	3	-3	4	-4	0	-648	—	
当期純利益	-27	507	32	-2	509	-9	-5	-21	-63	-98	-607	—	
一株当たり当期純利益 (円)						2,119.53						-472.88	—
為替レート 累計平均	155.87	152.79	152.65	152.63		144.62	146.04	148.73	150.69				
(Yen/USD) 3か月平均	155.87	149.70	152.38	152.57		144.62	147.47	154.10	156.97				

サンケン コア

<通期 前期比(億円)>

売上 白物家電市場を中心とした減収 -114(うち為替影響 -5)
 営業利益 為替影響 -2、後工程の生産再編に伴う作り込み影響(1Q~3Q)+13、生産調整(4Q) -29

連結

<通期 営業外損益以下 主な変動要素(億円)>

営業外損益
 ・持分法投資/LPS運用損益 : -30 (アレグロ当期純利益の持分損失-21、LPS運用損-9)
 ・為替差損 : -12
 特別利益
 ・固定資産売却益 : +11 (旧ユニット事業撤退に伴うインドネシア工場売却)
 ・持分変動利益 : +25 (アレグロ株式報酬計上に伴う持分変動影響)
 特別損失
 ・固定資産処分損/減損損失 : -8 (石川サンケン 志賀工場閉鎖)
 ・特別退職金 : -24 (石川サンケン -21、サンケンインドネシア -3)
 法人税等 : -9

2026年3月期 通期業績

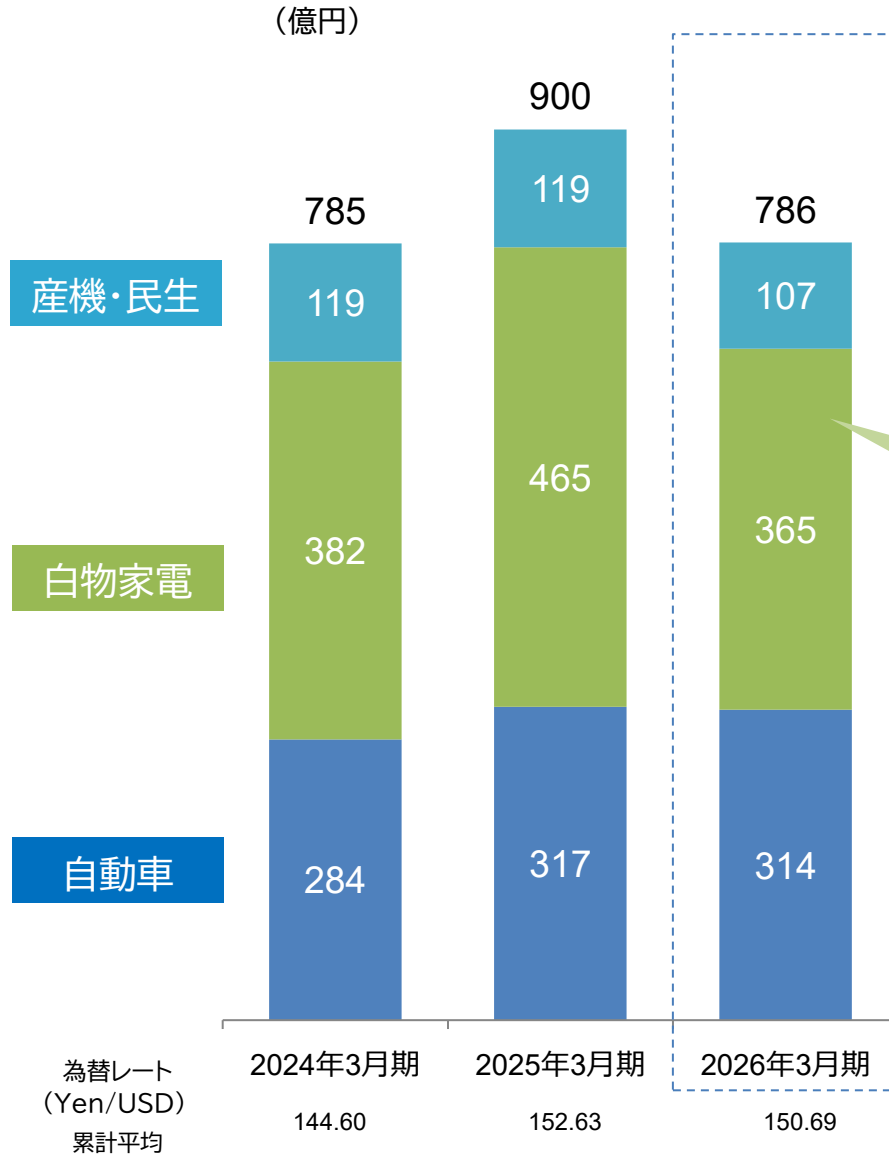
(億円)	2025年3月期					2026年3月期					11月予想	11月業績予想比	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	通期	金額	増減率
売上高	498	230	233	255	1,216	222	188	181	210	802	788	+14	+1.8%
サンケンコア	224	224	216	237	900	210	185	181	210	786	772	+14	+1.8%
その他	275	6	17	18	316	12	3	0	0	16	15	—	—
営業利益	-46	-10	2	16	-38	-4	-5	-8	-30	-47	-60	+13	—
サンケンコア	3	-1	4	15	20	-3	-4	-8	-30	-45	-58	+13	—
連結調整他	-49	-9	-1	2	-58	-1	-1	0	0	-2	-2	-0	—
持分法投資/LPS運用損益	—	-20	18	-48	-50	-1	9	-10	-27	-30	—	—	—
経常利益	-57	-86	34	-35	-143	-9	1	-22	-58	-88	-83	-5	—
特別損益	15	634	6	-7	648	3	-3	4	-4	0	—	—	—
当期純利益	-27	507	32	-2	509	-9	-5	-21	-63	-98	-97	-1	—
一株当たり当期純利益 (円)					2,119.53					-472.88	-452.29	-20.59	—
為替レート 累計平均 (Yen/USD) 3か月平均	155.87	152.79	152.65	152.63		144.62	146.04	148.73	150.69				
	155.87	149.70	152.38	152.57		144.62	147.47	154.10	156.97				

サンケン
コア

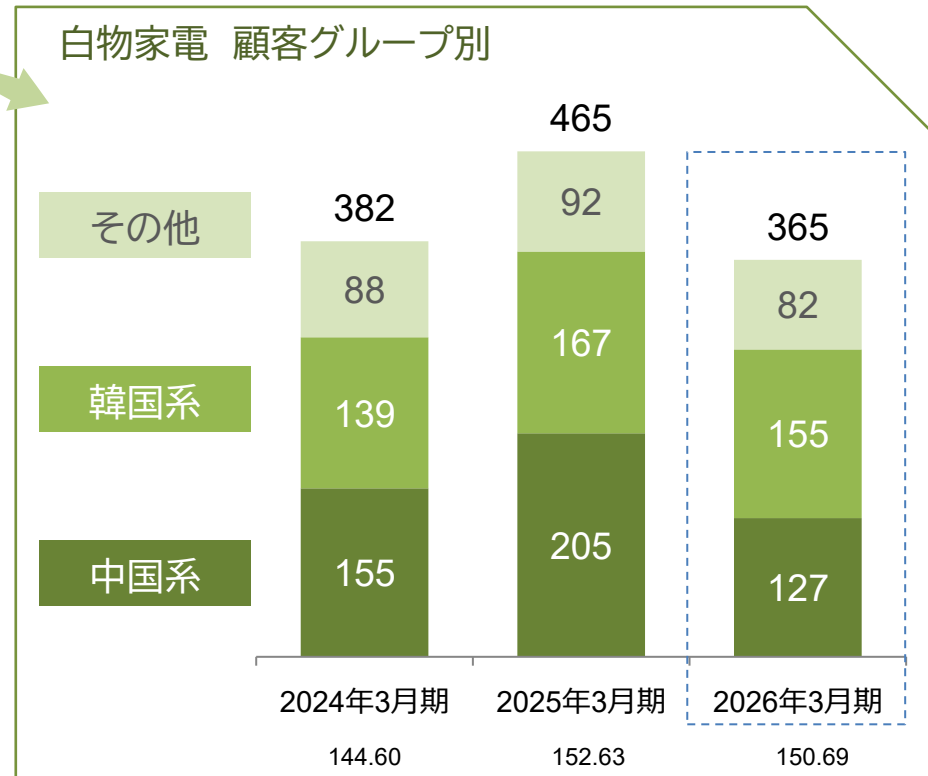
<11月 業績予想比(億円)>

売上 為替影響 + 14(半期)
 営業利益 為替影響 + 6(半期)、在庫出荷増に伴う未実現利益の戻り+4(4Q)、経費削減等+3(4Q)

市場別売上高 通期推移

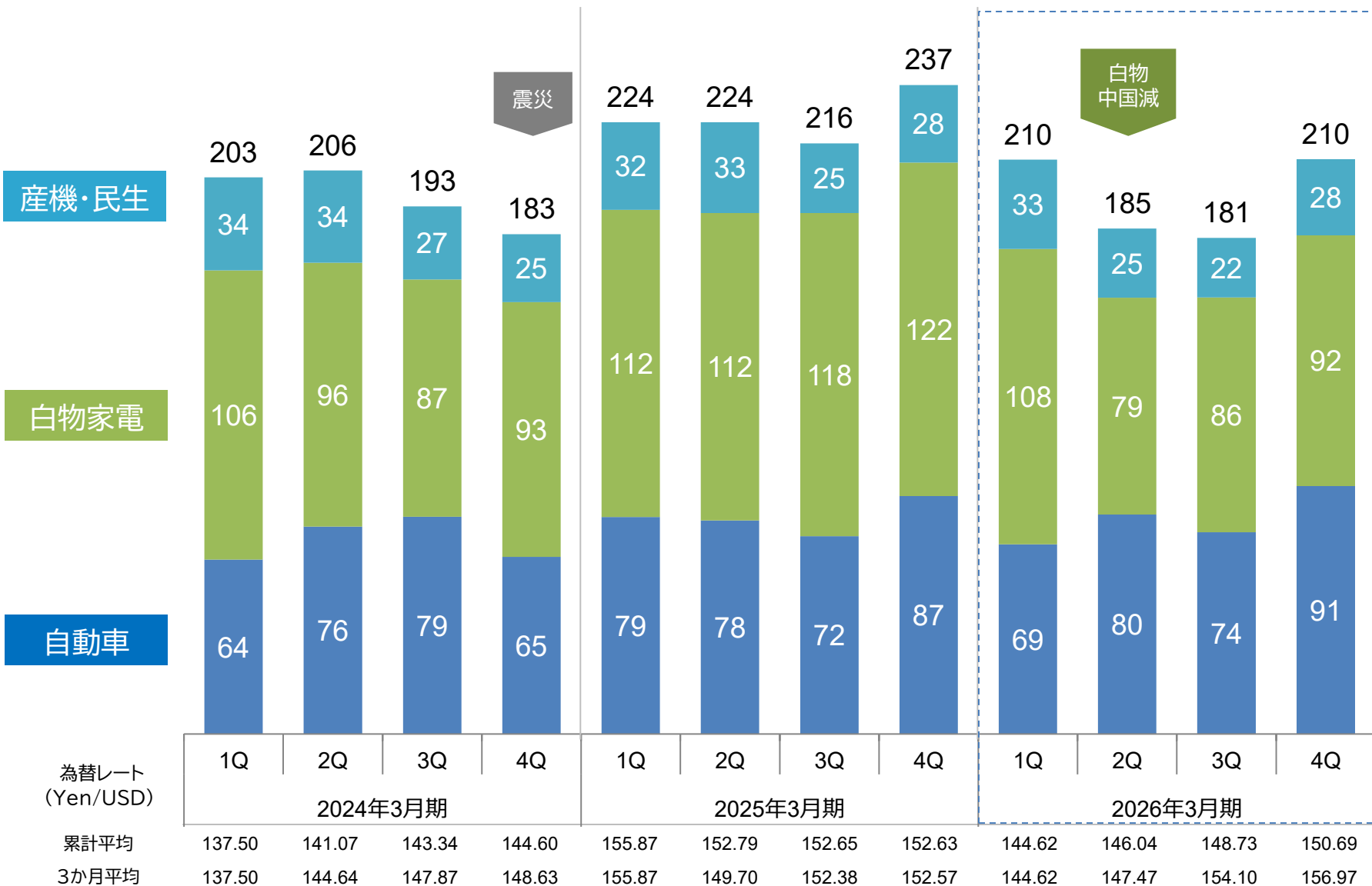


- 為替影響を加味すると、自動車は前期比で微増
産機・民生は微減
- 自動車はICE向けが粘り強く維持、一方でEVT
ラクションモータ用パワーモジュールが伸び悩む
- 白物家電は中国系が大幅に減少、その他の日系
中国向けも需要減から減少



(億円)

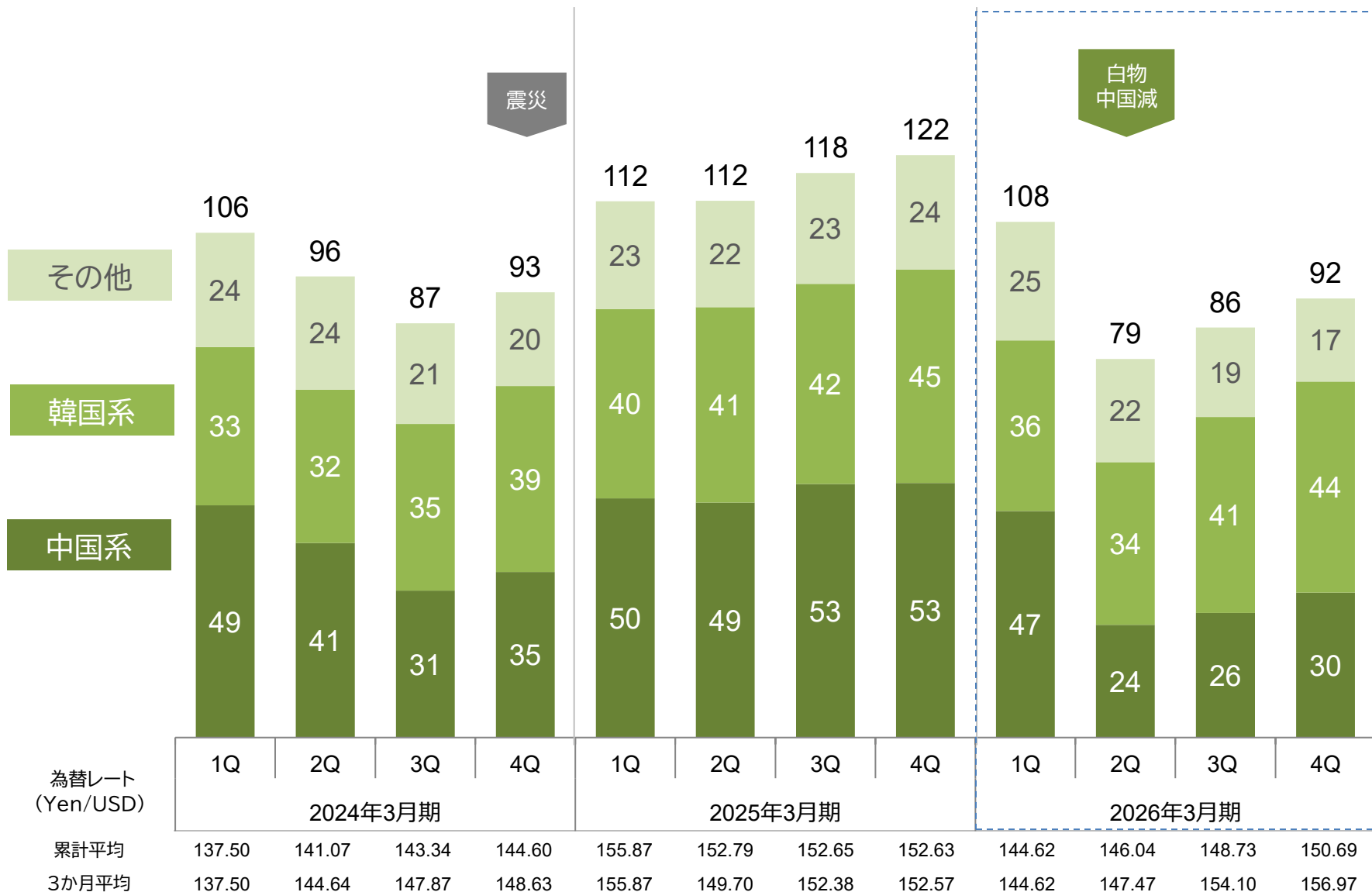
市場別売上高 四半期推移



白物家電市場

>顧客グループ別売上高

(億円)



引き続き健全な財務体質を維持

	2024年3月末	2025年3月末	2026年3月末
自己資本比率	31.1%	56.9%	50.1%
D/Eレシオ	1.18x	0.43x	0.67x

2027年3月期 業績予想

市場環境

～マクロの情勢～

- 金属建値、素材・エネルギー価格の高騰懸念
- 中国経済の成長鈍化は投資・消費活動に影響
中国製半導体へのシフトが急速に進展
- 米欧の政策転換でEVキャズムが世界に波及
- 新興国は減速傾向も、インド経済は堅調維持
- IEAは、データセンター・空調・BEV等の増加により電力需要が加速すると予想

自動車市場

- CY26 OEM生産台数予測 93M台
足元EVキャズムによりICE/HEV向けが堅調
- [空調]電動コンプレッサー向けIPMは、国内BEV/PHEV新モデルに搭載、純増見込み
- [パワトレ]EVトラクションモータ用パワーモジュールは、複数Tier1へ拡販
- [シャシー]パワーデバイスの世代交代を機に引き合い増 (EPS駆動・ABS油圧ソレノイド・ECU電源等)

白物家電市場

- 中国エアコン向けは、輸出モデルで継続予定原価を改善した新製品を投入、洗濯機へ拡販
- 韓国顧客のCY26生産は、前年比で伸長計画エアコン向けIPMが順調に増加見込み
- インドのエアコン3社にIPM採用、純増見込み
- 欧州顧客で洗濯機向けIPM採用、純増見込み
下期でエアコンへ展開
欧米数社においてデザインイン活動進行中

産機/民生市場

- 汎用ポンプ用1200V高耐圧ケースモジュールが、海外大手顧客に採用
- 22nmMCU搭載デジタル電源ICの新製品が、韓国OLED-TV向けに採用
- データセンターのチラー冷却水循環ポンプ向けに、EVトラクションモータ用パワーモジュールを応用展開、海外顧客にて評価継続中
- ECファン・ポンプ向けに高耐圧IPMを拡販

2027年3月期 業績予想

(億円)	2026年3月期実績			2027年3月期予想			通期 前期比	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	増減率
売上高	410	392	802	393	472	865	—	—
サンケンコア	395	391	786	393	472	865	+79	+10.0%
その他	15	0	16	—	—	—	—	—
営業利益	-9	-38	-47	-24	38	14	—	—
サンケンコア	-7	-38	-45	-24	38	14	+59	—
連結調整他	-2	0	-2	0	0	0	—	—
持分法投資/LPS運用損益	8	-38	-30					
経常利益	-8	-80	-88	-29	30	1	—	—
特別損益	0	0	0					
当期純利益	-14	-84	-98	-29	39	10	—	—
一株当たり当期純利益(円)			-472.88			48.26	—	—

為替レート (Yen/USD) 累計平均

150.69

155

※売上高その他: 旧ユニット事業

<変動要素(前期比)>

売上高 : (+) 金属建値高騰に対する適正売価条件の獲得、白物家電 韓国向け伸長、為替影響

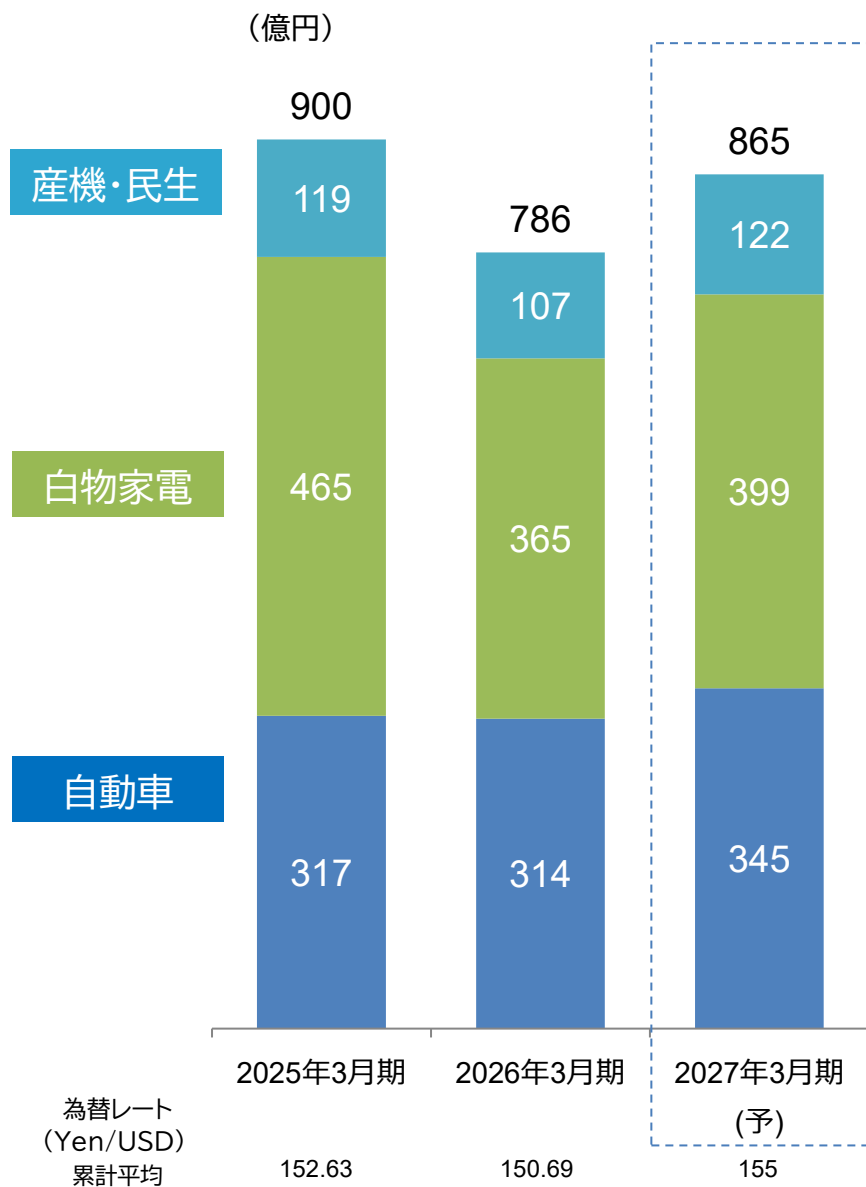
営業利益 : (-) 素材価格高騰

(+) 生産増、適正売価条件の獲得、金属建値対策、生産再編、経費削減、為替影響

2027年3月期 対ドル想定為替影響(1円変動/年): 売上高 約4億円 営業利益 約1.3億円 (円安でプラス・円高でマイナス)

原材料調達リスク影響: 業績への影響が判明した時点で速やかに開示

市場別売上高 通期推移



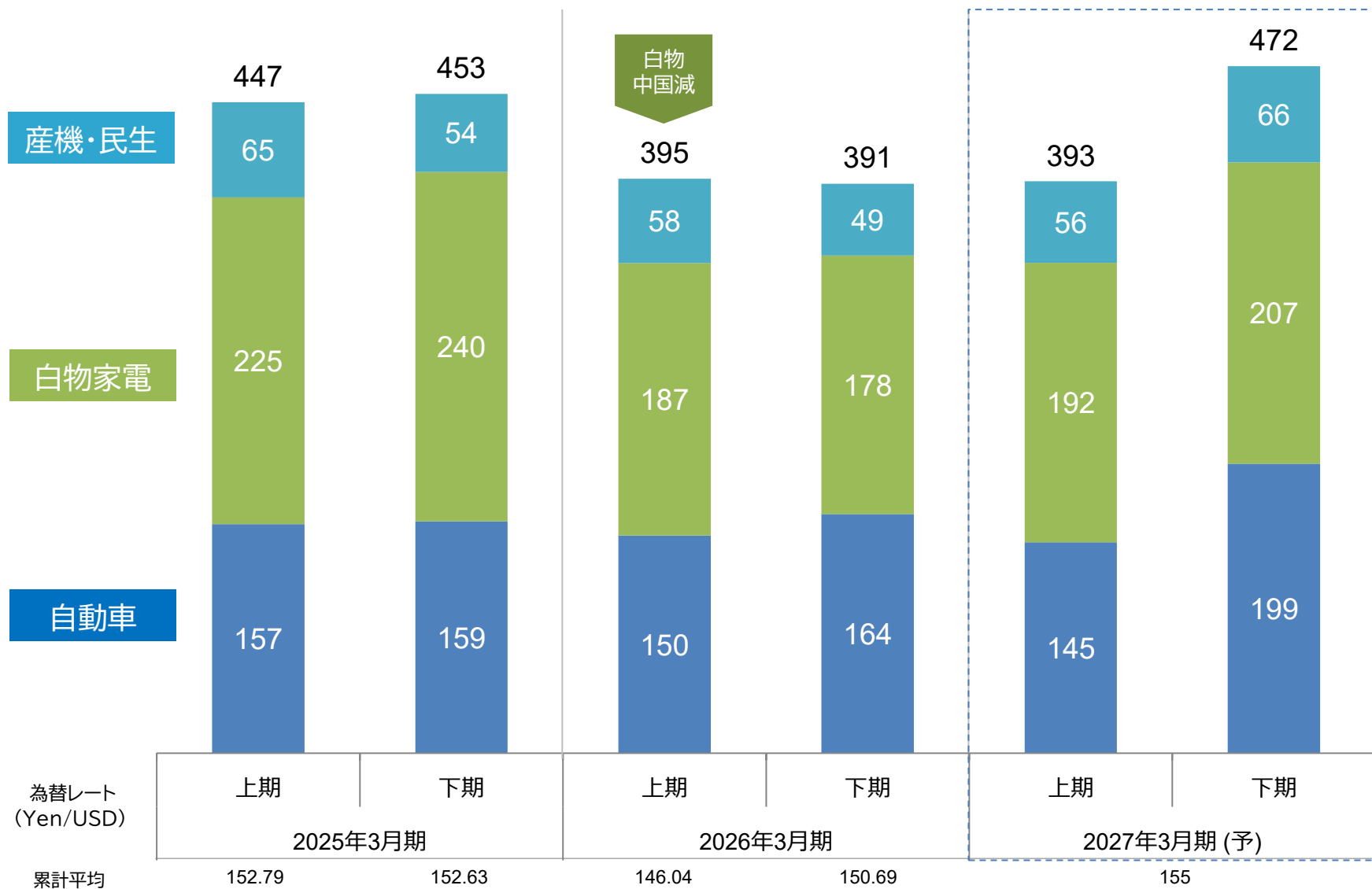
欧州・中国・日系顧客で業務用空調が伸長
韓国OLED-TV向けに新製品のデジタル電源IC採用

中国維持、韓国伸長、
インド・欧州新規獲得を見込む

ICE堅調維持、空調等でIPM採用増
季節要因+適正売価獲得で四半期80億円以上を確保

(億円)

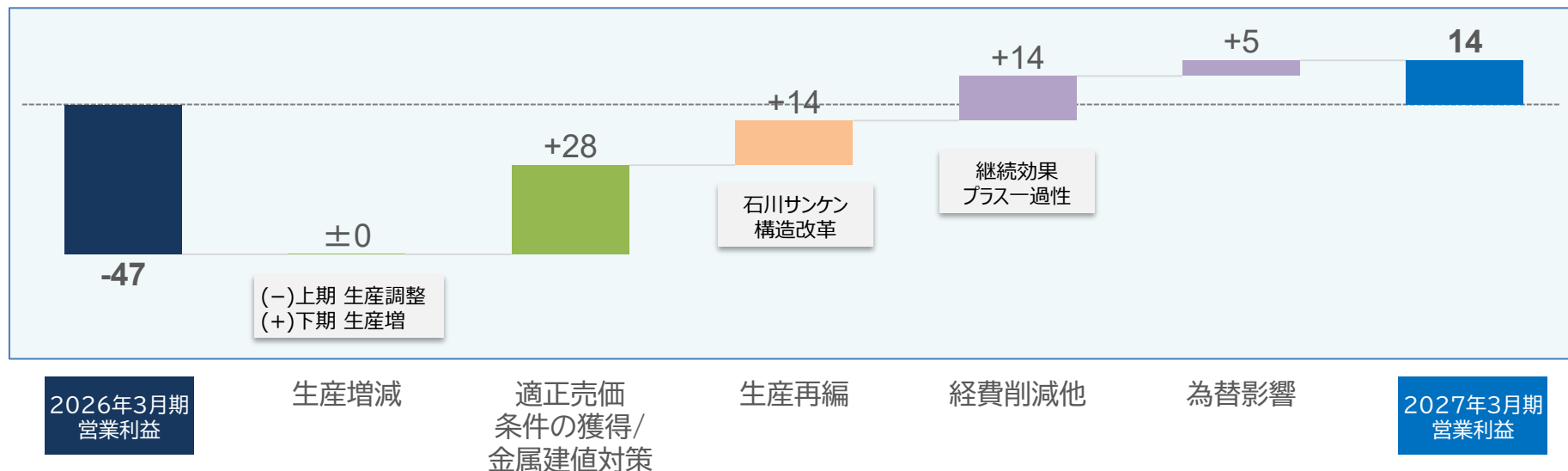
市場別売上高 半期推移



営業利益変動要因

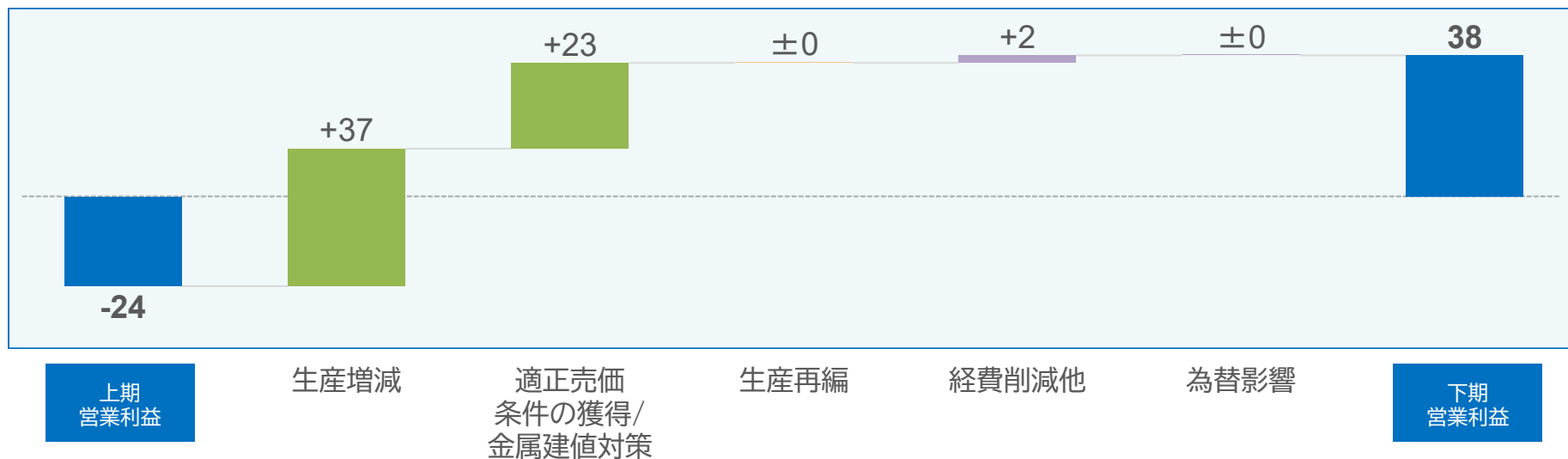
2027年3月期業績予想 前期比較

(億円)



2027年3月期業績予想 上下比較

(億円)



参考 決算短信 重要な後発事象

(連結子会社における希望退職者の募集)

当社の連結子会社である山形サンケン株式会社は、2026年5月7日開催の臨時取締役会において、希望退職者の募集を行うことについて決議いたしました。

1. 実施の理由

山形サンケン株式会社は、半導体市況の変化を受けて生産効率の改善を進めてまいりましたが、今後の持続的な収益体質の確立に向けては、生産体制の最適化および人員構成の見直しが必要であると判断いたしました。このため、収益構造の再構築を目的として、希望退職者の募集を実施することといたしました。

2. 概要

- | | |
|-----------|------------------------------|
| (1) 対象者 | 2026年4月1日時点で45歳以上の社員（再雇用者含む） |
| (2) 募集人数 | 65名程度 |
| (3) 募集期間 | 2026年6月8日～2026年6月26日 |
| (4) 退職予定日 | 2026年9月30日 |
| (5) 優遇措置 | 通常の退職金に加え、割増退職金を支給 |

3. 業績に与える影響

本件に伴い発生する特別割増退職金等については、現時点で約7億円を見込んでおり、2026年度連結決算において特別損失として計上する予定です。

24中計 進捗/課題 将来成長イメージ

24中計 進捗/課題

変化への対応、成長軌道への道筋

1年目:震災リカバリー

2年目:市場変化に対応

成長軌道に道筋

グロース局面へ

2025年
3月期

2026年
3月期

2027年
3月期

2028年
3月期

次期中計
イメージ

	2025年 3月期	2026年 3月期	2027年 3月期	2028年 3月期	次期中計 イメージ
売上高	<small>サンケンコア</small> 900億円	<small>サンケンコア</small> 786億円	業績予想 865億円	計画 1,000億円以上 ↓ 875億円	[自動車] EV回復局面 産機伸長 [白物] 中国維持 韓国伸長 インド・欧米伸長
営業利益 及び利益率	<small>サンケンコア</small> 20億円 (2.2%)	<small>サンケンコア</small> △45億円	原価改善 ✓適正売価獲得 ✓固定費削減 ✓Au→Cu変更 14億円 (1.6%)	10% ↓ 4%以上	最適原価の実現 生産協業効果 GaN搭載 新製品の拡販
損分点(BEP)	860億円	890億円	830億円	790~820億円	
為替(対USD)	152.63円	150.69円	155円	145~155円	

収益改善に向けた優先課題の進捗

顧客満足と両立する当社企業価値の実現

24中計骨子

製品戦略

- ・ SPP-プラットフォーム製品とカスタム製品の両輪で成長

拡販戦略

- ・ セグメント別成長戦略に基づき、自動車・白物・産機の各市場へ取り組む

利益改善レバー

- ・ 新製品比率向上
- ・ 既存製品の収益改善
- ・ 原価改善

優先して取り組む課題

トップライン積み上げ施策

課題認識～実績:

- 他地域・新市場・新用途への拡販
 - ・ 「アジア戦略室」による早期アクション
 - ⇒ 東アジア/南アジア白物案件の早期獲得
 - ⇒ データセンター案件の早期獲得
- 適正売価条件の獲得

対策～将来アクション:

- ・ 中国向け(輸出モデル)維持、韓国向け(世界市場)の更なる拡大
- ・ 新市場拡販として、欧米・インドでの参入と拡大
- ・ 新用途拡販として、データセンターやモビリティ新領域に注力
- ・ 金属建値高騰分を反映した売価及び材質変更交渉

原価低減施策: 固定費/変動費の削減

課題認識～実績:

- 固定費削減
 - ・ 石川サンケン構造改革
 - ・ 経費削減(緊急経費コントロール)
- 最適生産の実現
 - ・ 志賀工場閉鎖完了(2026年4月末)
 - ・ 後工程生産再編は計画どおり進捗

対策～将来アクション:

- ・ 全社経費管理の優先度コントロール
- ・ 固定費管理の徹底 グループ内工数の徹底活用
- ・ 固定費削減の取り組み(山形サンケン)
- ・ 震災前の生産性を回復させ最適生産へ、リソース活用最大化

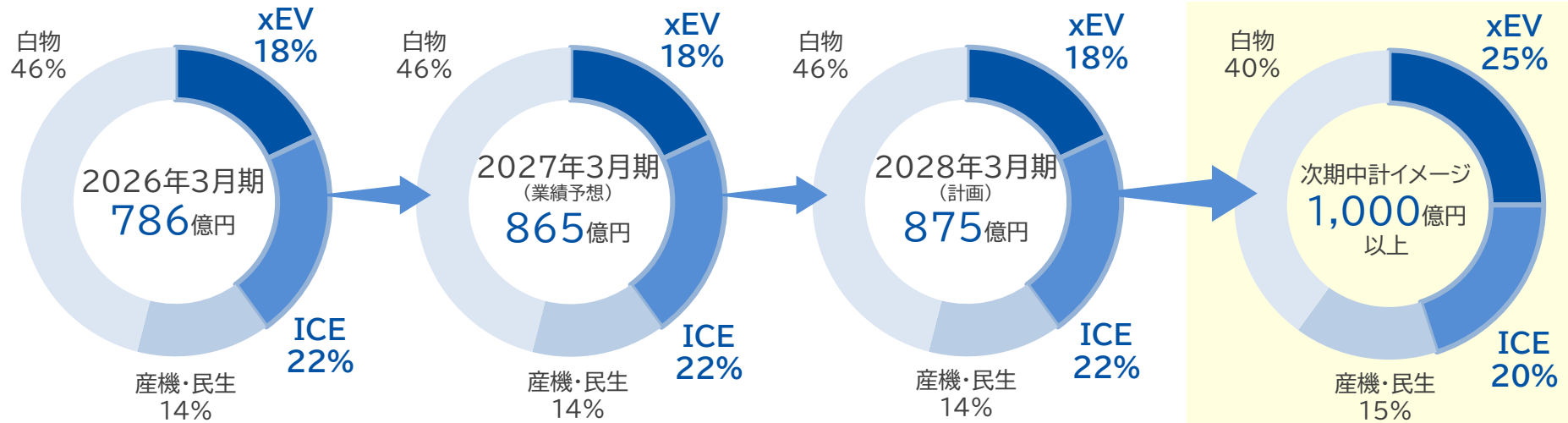
➢ 変動費削減

- ・ 銅ワイヤー化技術は確立済み
- ・ 金属建値対策の顧客交渉スタート
- 新製品の採算改善
 - ・ 後工程生産協業の公表

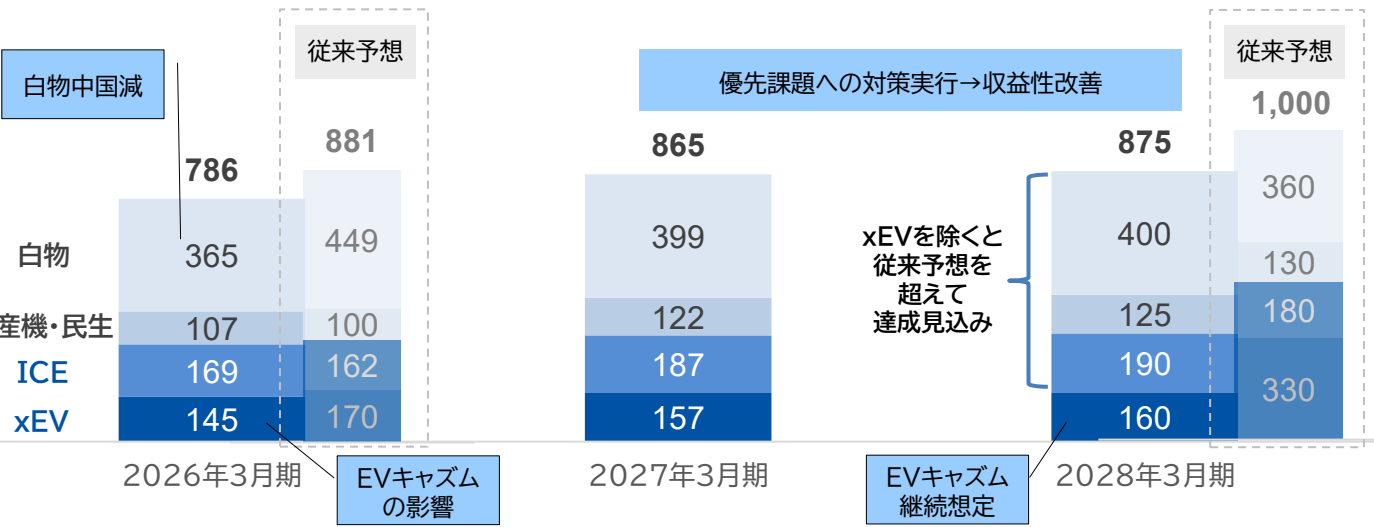
- ・ 金属建値高騰を反映した適正売価条件の確立
- ・ 銅ワイヤー化など材質変更による原価低減と顧客価値提供
- ・ 生産協業を活用した顧客価値のある競争優位性の確保
- ・ 原価低減を実現した新製品の早期上市

将来成長イメージ

独自性・優位性がもたらす創出価値で顧客・社会に貢献



パワー半導体の独自性・優位性がもたらす創出価値



パワーモジュール

パワーデバイス

培ってきた技術の強み
複数の特性を両立する技術の活用

高効率	高出力
高放熱	低ON抵抗
高周波	低ノイズ
堅牢性	高耐圧

顧客に対して

- 省電力
- 安全性
- 小型化

社会に対して

- 快適な暮らし
- 省エネ
- 安心・安全

26年3月期は無配継続とし、サンケンコア収益性改善を最優先とする

自己株式取得

- 2025年9月までに、300億円、417万株（発行済み株式数対比 約17%相当）の取得を完了
- 2025年10月3日に自己株式の消却を実施

配当方針

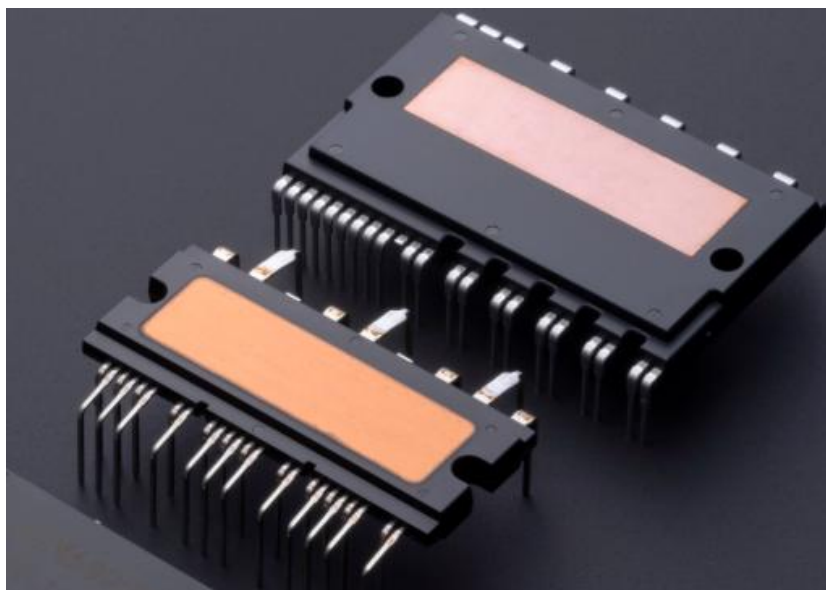
- 中国白物のシェア減少や旧ユニット事業清算、及び後工程生産再編等による事業損失により、26年3月期 期末配当は無配
- 27年3月期のサンケンコアの収益性改善の見通しに応じて方針を検討するも、現時点では未定とし、外部環境も注視

マーケットポジション

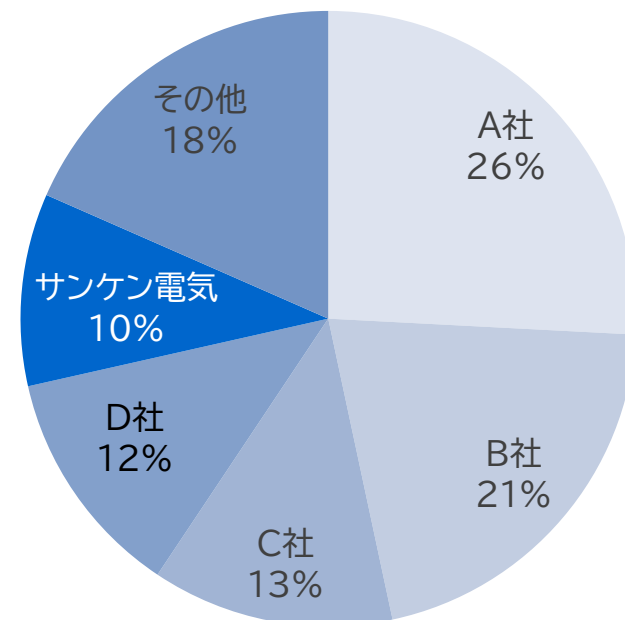
パワー半導体市場でグローバルの地位を確立

IPM(インテリジェント・パワーモジュール)

世界 5 位
国内 3 位



IPMマーケットシェア



富士経済「2026年版 次世代パワーデバイス関連市場の現状と将来展望」より



2026年3月期 決算説明会

将来に関する記述についての注意事項

この資料に記載されている当社に関する業績見通し、計画、方針、戦略、目標、予定、判断、認識などのうち既に確定した事実でない記述は、将来に関する記述です。これら将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する前提を基礎として作成したものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいます。従って、実際の業績は、これらのリスク、不確実性、その他の要因により、業績見通しと大きく異なる可能性があります。また、当社は、適用法令の要件に服する場合を除き、業績見通しの見直しを含め、将来に関する記述を更新あるいは修正して公表する義務を負うものではありません。

当社が属するエレクトロニクス業界は、常に急激な変化に晒されていますが、当社の業績や財産に重大な影響を与えるリスク、不確実性、その他の要因には、(1)経済環境、市場・需給動向、競争状態、(2)為替レートの変動、(3)技術進化への追従の成否、(4)原材料の高騰あるいは調達難、(5)各国・地域における法制度の変更あるいは社会情勢の急変、(6)偶発事象の発生などがありますが、これらに限定されるものではありません。